

## 小本川水系流域治水協議会 これまでのふり返り

## 1 小本川水系流域治水協議会設立の経緯

今般の激甚な水害や、気候変動による水害の激甚化・頻発化に備え、小本川流域全体のあらゆる関係者の協働により、流域全体で水害を軽減させる治水対策を計画的に推進することを目的として小本川水系流域治水協議会を設立。

平成28年台風第10号により甚大な被害を受けた小本川流域においては、県、岩泉町及び住民などのあらゆる関係者の協働により様々な対策を行っていたところであり、これらの対策を「小本川水系流域治水プロジェクト」としてとりまとめ、令和2年度末に公表した。

## 2 令和2年度 小本川水系流域治水協議会の開催概要

- 日 時 令和3年2月5日（金）11時～12時
- 場 所 岩泉地区合同庁舎3階 第1会議室
- 出席者 岩泉町 中居健一町長、 岩泉土木センター 佐々木雅章所長  
宮古農林振興センター 佐々木忍所長、 同林務室 田屋了室長
- 報道機関 IBC岩手放送、岩手日報社、日刊岩手建設工業新聞

## 3 令和2年度 小本川水系流域治水協議会の開催結果

## (1) 協議議事及び結果

- ・協議会規約について原案通り承認
- ・流域治水プロジェクトについて原案通り承認

## (2) 主な発言

## ①中居健一町長

- ・昨今、気候変動等により水害が頻発化・激甚化する等、将来が懸念される中で、今回この小本川水系について、関係者の皆様が協働しながら流域全体で水害を軽減させる流域治水の推進を図っていく会を結成したことについて、大変ありがたく思っている。
- ・流域治水の推進が、ハード・ソフト一体の事前防災に繋がり、町民の皆様の生命や財産がしっかり守られる。
- ・今後の協議会や幹事会の進行の中で、できるだけ岩泉町の様々な方々を巻き込んで、その方々の経験や思いを汲み取るような形となるよう配慮していただきたい。
- ・砂防堰堤の竣工式を活用した取組のように、これからの将来、岩泉町を担う若い方々の、防災・減災の意識を強めていきたい。

## ②佐々木忍所長

- ・農地の復旧と併せて、担い手経営体の集積に取り組んでいる。
- ・田んぼの貯留機能を発揮するのも、営農が継続されているからであり、流域治水の一助となると考えている。

## ③田屋了室長

- ・土砂災害対策については砂防事業と調整を図りながら実施してきている。
- ・今回の流域治水プロジェクトを契機に、河川、道路、防災とも調整を図りながら、治山事業等、上流の対策をしっかりと進めていきたい。

## ④佐々木雅章所長

- ・今回、流域治水プロジェクトとしてとりまとめたが、県、町、住民、企業等を巻き込んで連携することはもちろんのこと、随時フォローアップを実施し、流域全体の安全安心を更に推し進めていくことに繋げていきたい。